



今、私は、自分の生家である一軒家のリビングを、コミュニティスペースとして「みんなのリビング葛が谷」という場をつくり、開放しています。

現在、私自身が仲間と一緒に企画して、ボランティアの調理担当が作るランチを食べれて、自由に過ごせるコミュニティカフェを開催したり、地域の方にお貸しして、サロン会が開催されたりしています。

この活動を始めたきっかけの一つは、近隣に住む、子供の頃から知っている老夫婦のご主人が転倒骨折してしまった時、医療や介護の知識を本人たちがあまり持っておらず、判断に困っていたため、直接親族ではない自分が介入することがあり、もっと身近に医療や介護のことで相談できるところがあつたらいいのに、と思ったことです。その頃、戸山団地にある「暮らしの保健室」のことも知ったこともあり、あのような場所が、もっといろいろな地域にできたらいいのに、と思ったのです。

現代は、人の生活に他人が踏み込むことが、社会のルールや世論的に極度に制限されてしまっているように思いますが、そういったものがいろいろな方を、生きづらくさせてしまっていないでしょうか。

周りの人をゆるやかに見守りながら、時におせっかいを焼くことが厭われない空気感を社会に取り戻せないかと思い、自らの生業も模索しつつ活動しています。

(診療所事務長 佐藤 雅明)

URUZO!メンバーが贈る介護食品

③ ハウス食品株式会社

最近、改めて感じている事は、自分が食べ物をおいしいと感じて食べる事ができ、食事を通じて色々なコミュニケーションを図れる事は、とても幸せだという事です。

口から食べるという事は、ただ単に栄養を摂取したり空腹を満たすだけではなく、全身を使って食べて、心も体も健康を維持でき幸せを感じられる、とても大切な行為です。だからこそ、日本全国が最期まで口から食べる街となるよう、「URUZO!」は一丸となって取り組んで参ります。

介護食は見た目や物性が異なり「食べたくない」と言われる事がしばしばあります。そこで、ハウス食品は見た目が通常の食事と変わらず、食欲を低下させない製品づくりに力を入れています。特に、カップデザートは、注力しているカテゴリーです。『まるで果物のようなゼリー』は、完熟した果肉の食感、甘味、香り、酸味などを再現し、果物が食べにくくなったご高齢の方にも、またそうでない方にも、見た目も味わいも美味しいとの評価を頂く製品の一つです。

ハウス食品は、今後も最期まで口から食べることを、幸せをサポートできる製品を、世の中に送り出していきたいと考えています。

(介護食品メーカー 的場 美紀子)



健康や幸福を追求しています！

～作業療法士が専門とするのは？～

デンマークイン新宿 臼井 悠

皆さんは、「リハビリ」と聞くと何をイメージされますか？きっと障害者が歩く練習をするような、機能回復訓練をイメージされる方がほとんどでしょう。

実は、皆さんがイメージする「リハビリ」は、次の定義されている内容が適しています。それは、病気やけをしている方、そして、高齢や障害などによって運動機能が低下した人々に対し、運動機能の維持や改善を目的に、運動療法や温熱・電気・水・光線などの物理療法を用いて行われる治療（リハビリ）で、日本理学療法士協会が定義づけている「理学療法士」のことになります。

しかし、リハビリは、理学療法士だけが行うものではありません。作業療法士もリハビリに携わっています。では、一体、作業療法士は、どのようなことを専門としているのでしょうか？



作業療法士は、人々の健康と幸福を促進するべく、医療・保健・福祉・教育・職業などの領域で行われ、作業に焦点を当てた治療・指導・援助をする専門職です。作業を通して、人は健康や幸福になるという基本理念のもとで、学術的な根拠に基づいて行っています。

また、作業とは、対象となる方々にとって、目的や価値を持つ生活行為のことを言いま

すが、日常生活活動や家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など、人が営む生活行為と、それを行うのに必要な心身の活動が含まれています。

難しい言葉を並べてしまいましたが、私なりの解釈では、作業療法士は、目的のある作業（人の行う全ての活動）を通じて、対象者の幸福を追求することだと考えています。

障害や加齢を元に戻すことはできません。「動かない手足をまた動くようにして欲しい」という方が多いのですが、私から対象者に「仮に手足が動くようになったら何がしたいのですか？」と聞いて、「また趣味がしたい」「旅行に行きたい」と対象者から返答されれば、対象者が動かない状態でも、行いたい作業をどうしたら達成できるかを真剣に考えます（なかなかそこまで具体的に思い描いている人は少ないですが）。

実際、対象者が自助具を使って片手で趣味を行えるようになったり、また、競技用車椅子に乗りたい希望があった方には、物や場所の手配をしたことがありました。

最近では、歩行困難な方が「大自然を走り回りたい」と言われたので、キャタピラ型の電動車椅子を提案しています。

これに限らず、「友達を作る」「生きがいになる場所を作る（見つける）」といったことでも、対象者が幸せになってくれるならいいのです。

作業療法は特別な治療法ではなく、単純に、対象者の幸福の為に何をしたら良いのかを考えるだけなのです。私にも知らない事や分からない事は山積みです。お互い助け合い協力しながら、皆さんと幸福を追求できたらと考えています。

